



国際ロータリー第 2790 地区第 5 グループ  
2025-26 年度 第 34 回例会 (通算第 2724 回) 週報  
2026 年 5 月 27 日 (水)

出席

会員 44 名 出席 27 名 欠席 17 名  
出席率 65.85% (27/41)  
修正前出席率 80.95%  
修正後出席率 80.95%

欠席者【敬称略】

江崎、金見、小島、嶋津、四宮、鈴木(秀)、鶴岡、濱田、林田、  
外崎、藤野、堀内、松岡、石束

メイクアップ【敬称略】

5/22 第 11 回ロータリー財団統括委員会  
堀内  
5/23 第 54 回地区年次大会  
石田  
5/23 米山奨学生及び世話クラブカウンセラー研修会  
渡邊(慎)、堀内

◆四つのテスト

宮寺順子会長



◆会長挨拶・報告

吉田和義会長



例会

■司会進行

大里光夫 S.A.A



◆点鐘

吉田和義会長

◆Rソング斉唱

「手に手つないで」

皆さま、本日は5月第3回例会にご出席いただき、誠にありがとうございます。まず、前回例会から本日までのクラブの動きをご報告いたします。

5月25日、巖根駅近くの松葉寿司におきまして、岩根小学校でのみそ作りプロジェクトを共に進めているジェスパルの皆さん、豆クラブの宗政さん、岩根小学校の校長先生・教頭先生、そして当クラブメンバーによる懇親会が開催されました。ジェスパルの発会経緯などを知る良い機会となり、地域の皆さまとの協働がこうして深まっていくことを大変嬉しく感

会長 吉田和義  
幹事 倉島和広  
会報・IT活用委員会委員長 阪中昌司  
副委員長 大岩もえ

RI会長 フランчесコ・アレツォ  
ガバナー 時田清次  
ガバナー補佐 渡邊慎司

じました。

本日は、会長挨拶に代えて、私自身がロータリーと出会った原点についてお話ししたいと思います。普段はあまりお話しする機会がありませんが、私にとってロータリーとの出会いは、偶然が重なり、人のご縁に導かれたものでした。ロータリークラブとの最初の接点は、2013年9月11日、富津シティロータリークラブでの卓話でした。きっかけは、木更津法人会から依頼されたセミナーが法人会側の都合でキャンセルとなり、関係者のご配慮で富津シティで卓話をさせていただくことになったことでした。実はこの時が、私にとって人生初の講師経験でした。ところが結果は、講師としての力不足により、会場の半分ほどのメンバーがお昼寝をされるという大失敗に終わりました。今となっては笑い話ですが、当時はかなり落ち込みました。しかし後年、窪田さんがガバナー補佐を務められた折にお伺いしたところ、「覚えているよ」と声をかけていただき、胸が熱くなったことを今でも覚えています。

ここまでは入会前のお話です。その後、仕事の関係で不動産の相談が必要になり、紹介されたのが藤野会員のお父さま、藤野勉さんでした。君津の本店で打ち合わせを終えた際、藤野さんから突然「君、ロータリーに興味あるか」と声をかけられました。深く考えず「興味あります」と答えたところ、「内田稔さんが会員だから、君のところに遣わすから」と言われました。社交辞令かと思っていたら、本当に内田稔さんが訪ねて来られ、そこから話はトントン拍子に進み、内田重会長年度に入会することとなりました。入会后、藤野勉さんは体調を崩され、お休みされることが多くなりました。

ある日、会社の近くを歩いていると、遠くから「おーい、おーい」と大きな声が聞こえました。「先生、先生」と呼ばれ、手を振っているのが藤野さんで、手を振られているのが私だと気づきました。まさにロータリーソング「それでこそロータリー」を地で行くような行動であり、あの光景は私の胸に深く刻まれています。藤野さん亡き後、ロータリーに自分の居場所が無くなったように感じ、退会も考えた時期に、ライラ委員のお話がありました。当時、大里さんが地区のライラ委員会に出向され、私はクラブの青少年委員長でした。大里さんいわく、「内田稔さんがガバナー補佐だから、木更津東からメンバーを出さないで内田さんのメンツが立たない」とのことで、協力することになりました。ライラ委員会に参加することで、他クラブの熱いメンバーとの出会いがあり、そこから今までクラブに在籍することにつながりました。

ロータリーとの出会いは、私にとって“偶然”の積み重ねでした。しかし、その偶然を“ご縁”に変えてくださったのは、ロータリアン一人ひとりの温かさでした。残念ながら藤野さんとはご逝去されましたが、命日が5月30日と伺い、本日の例会で皆さまにご紹介させていただきました。

本日もどうぞよろしくお願いたします。

#### ◆幹事報告

倉島和広幹事



#### 1. 幹事報告

1) ガバナー事務所より「風の便り」が届いておりますので回覧いたします。

#### 2. 他クラブからのお知らせ

1) 千葉RCより「ご来会御礼」が届いておりますので回覧いたします。

#### 3. その他のお知らせ

なし

#### 4. 回覧

- ガバナー事務所より「風の便り」
- 千葉 RC より「ご来会御礼」

#### ◆委員会報告

◇吉田和義会長



前回、商工会館にて次年度に向けた初めての例会を開催いたしました。今後の運営にあたり、問題点や「こうした方がよいのではないか」というご意見がございましたら、ぜひ皆様のお声をお寄せいただければと思っております。ご意見の提出先については石田さんと相談し、事務局宛にメール等でお送りいただき、事務局にて集約することといたしました。改めてご案内いたしますので、気づいた点があればお気軽にお寄せください。

本日は少し時間がありますので、私が気づいた点を述べさせていただきます。

まず1点目は、クラブの認証状についてです。普段、例会場にある認証状はホテル側が用意したイーゼルに載せておりますが、次年度はこのイーゼルをどうするか検討が必要です。今回

は石田さんがご用意くださったイーゼルに合わせてみましたが、ややバランスが悪いように感じました。絵画がお好きで、ご自宅に余っているイーゼルがあるというメンバーがいらっしゃいましたら、ご寄付いただけると大変助かります。

2点目は、商工会館の倉庫についてです。前回の例会時に倉庫内をご覧になった方はいらっしゃいますでしょうか。私は拝見いたしました。通気口のない倉庫に旗などの布製品を保管すると、カビが発生するのではないかと懸念しております。

3点目は、テーブル拭きについてです。利用状況が不明なテーブルで食事をするため、テーブル拭きがあった方が良く考えております。今回は私が用意しましたが、使用したテーブル拭きを毎回持ち帰るのは手間がかかるため、ウエットティッシュのように使い捨てできるものが適しているのではないかと思います。

以上、私からの気づきとなります。皆様もお気づきの点がございましたら、どうぞ積極的にお寄せください。

◆出席報告 親睦出席委員会 内田慎一郎会員



■例会アワー

卓話:「姉妹クラブ交流に向けて」

雑誌・姉妹クラブ委員会 遠山誠一委員長



姉妹クラブである坂出東 RC とのここ数年間の交流は、お互いの周年記念行事への出席、Web による合同例会の開催などが中心でしたが、今月上旬に坂出東の姉妹クラブ委員長鎌倉克英さんと電話でお話をした際、実は、坂出東 RC では来年度の交流活動として、沖縄への両クラブ合同旅行を提案

する予定とお聞きいたしました。なぜ沖縄への旅行なのか、鎌倉委員長のお話によりますと、沖縄の首里城は 2019 年 10 月 31 日火災により正殿などが消失し復元工事中ですが、今年の秋頃正殿の復元工事が完了する見込みだそうです。実はその首里城の復元再建には、香川県出身の鎌倉芳太郎という方が大きく貢献した、そのことに因んで沖縄旅行をとの話が持ち上がったとのこと。この話を聞いた私は、これはいいネタを仕入れたと思っていましたが、実は次年度幹事の松岡さん、ガバナー補佐の渡辺慎二さん、小林さんはすでにご存じであったようです。鎌倉委員長から、一昨日 25 日にも連絡があり、先週 21 日・22 日に開催した次年度委員長会議にて合同旅行実施（来年 2 月）の了承を得たとの続報を受けました。沖縄への合同旅行の提案は大変ありがたい話です。次年度の交流活動に関するものであり、当然、会員皆さんの意見や理事会等での判断もあるので、本年度委員長としては、首里城復元と香川県出身の鎌倉芳太郎の功績、そして地元のロータリークラブとの関わりを調べて報告することぐらいはできるかなと考えまして、本日お話しさせていただきます。

お手元に卓話資料として、「首里城復元と鎌倉芳太郎（香川県出身）の功績」と題し私がまとめたペーパー、その裏には、2021 年（令和 3 年）10 月の沖縄那覇市の広報誌から抜粋した「首里城を救った男 鎌倉芳太郎」の記事を付けてお配りしております。

まず始めに、首里城とはどのような城か、どんな歴史に包まれているのかを簡単に紹介します。ご存じの方も多いと思いますが、首里城は、2000 年（平成 12 年）12 月に世界文化遺産に登録された琉球王国のグスク（城）や関連遺産群の代表的な城です。しかし、創建当時の城や建物は現存していないため、世界遺産に該当するのは一部残っていた石積み（土台）・城壁であり、復元された建物群は、世界遺産ではないとのこと。最初の城が建てられた時期は明らかではないが、琉球王朝の初期 14 世紀末頃と推定されているようです。首里城は 1429 年～1879 年までの 450 年間にわたり存在した琉球王国の政治・外交・文化の中心として栄華を誇った城であったとされています。小高い丘の上に西側を正面に立地し、中国や日本との交流の拠点とされていたとのこと。記録によれば首里城の最初の消失は 1453 年。1660 年・1709 年も火災で焼失しその都度と再建され、首里城の歴史は消失と再建の繰り返しだったようです。1879 年（明治 12 年）に首里城から国王が明治政府によって追放され、琉球から沖縄県へと改組された後は、首里城は日本陸軍の駐屯地や首里高等女学校等の校舎として利用されたとのこと。その後、1715 年に再建されてから 200 年以上経過した 1923 年、老朽化が激しく荒廃した正殿が倒壊の危険があるとして取り壊しが決定されました。

しかし、お配りした資料の 1 の首里城の消失と復元の歴史

として『1924年取り壊しの危機を脱す』と記載しましたとおり、その取り壊しは中止となりました。この取り壊し中止に奔走し、首里城を救ったとされる人物が、香川県出身の鎌倉芳太郎です。鎌倉芳太郎氏は、1898年に現在の香川県三木町（香川県の東部）に生まれ、東京美術学校（現在の東京芸術大学）を卒業後、23歳の時に美術教師として沖縄に勤務し、そこで沖縄の文化や民族、建築・彫刻・絵画・工芸品などの美術に魅了され、その研究に没頭しました。沖縄勤務後、東京に戻り沖縄研究を続けていた1924年、首里城取り壊し決定の記事を読み、急ぎ関係者を通じ内務省へ取り壊しの中止要請を行い、取り壊し中止となったのです。これが首里城を救った鎌倉氏の一度目の功績となりました。なお、取り壊しの危機を免れたものの、首里城は後に1945年太平洋戦争沖縄戦で四度目の焼失となっています。一方、鎌倉芳太郎氏は、沖縄芸術の調査研究を続け、まさに氏のフィールドワークとなっていきました。更にその内容・結果を写真や自筆ノートなどに克明に資料として記録し、保管しました。その数千点を超えるとのことで、現在も沖縄県立美術館に貯蔵されています。その資料の中に、高度な写真技術で撮影した首里城の写真画像や首里城正殿の設計図といわれる「寸法記」の模写図など精緻で貴重な資料も含まれておりました。これが、本土復帰20周年の節目となる1992年に『首里城の復元なくしては戦後は終わらない』との沖縄県民の強い願いで実現した「平成の復元」、そして現在行われている「令和の復元」の重要な基礎となったのです。この資料が無ければ、現存していなければ、首里城再建は実現不可能といわれています。2019年10月31日に原因不明の火災により五度目の焼失となった首里城正殿は、2022年から復元工事が進められ、冒頭申し上げましたが、本年2026年の秋ごろには工事が完了する予定とのことです。鎌倉芳太郎氏は、1923年に当時の首里城の取り壊しを撤回させ、さらに氏の残した調査研究資料が平成・令和の復元を実現させ、『首里城を三度救った男』としてその功績は今も称えられています。

お配りした資料の3の鎌倉芳太郎とRCにも記載しましたが、本年3月21日に開催された第2670地区香川県の合同IMでは基調講演のテーマとして氏の業績が取り上げられています。また、氏の功績を称え、より多くの人々に知っても

raitaito、沖縄南RCや氏の出身地香川県の高松南RCでは顕彰碑を建立しております。私も、坂出東RC姉妹クラブ委員長鎌倉克英さんから、お話を聞くまでは鎌倉芳太郎氏のことは全く知りませんでした。恐らく会員の多くの皆さんも同様かと思います。今回、限られた時間内での俄仕立てではありましたが、調べるにつれ沖縄に魅せられ、沖縄を愛した鎌倉芳太郎の思いはこれからも色褪せることなく受け継がれていってほしいと感じた次第です。

次年度の坂出東RCとの姉妹クラブ交流に向けて、少しでも役立てていただければと思い、今年度の合同例会中止を招いた贖罪も兼ねまして、卓話として報告いたしました。ありがとうございました。

◆点鐘

吉田和義会長

例会日：毎週水曜日 PM12:30～1:30

例会場：オークラアカデミアパークホテル TEL 0438-52-0111

事務局：木更津市朝日1丁目2-29 シグママンション朝日B棟105号

TEL 0438-25-0716 FAX 0438-25-0718

木更津東ロータリークラブ事務局メールアドレス

eastkisarazu-rc@nifty.com